



タブレット端末を使いながら授業を受ける千駄谷小の4年生＝4月、東京都渋谷区で（中西祥子撮影）

# 授業や行事 現場手探り

## コロナ禍の教訓

5類移行

12345

### 学校の混乱

「わたし特産を調べる」「これ、どのページにする？」などと言葉を交わしながらタブレット端末を操作する。四月下旬、千駄谷小学校（東京都渋谷区）の四年一組では、東北地方について調べる社会の授業の真っ最中。「はい、まとめて」。担任教諭の顔にマスクはない。マスクなしの子どももちらほら見られた。

「突きつけられた意義」四年生が入学したばかりの三年前、学校現場は緊迫感に包まれていた。二〇二〇年二月二十七日夕、新型コロナウイルスの感染拡大で安倍晋三首相（当時）が突然、全国すべての小中高校と特別支援学校に臨時休校を要請。千駄谷小も休校になり、入学式は六月に延期された。

千駄谷小の中野有一郎校長（四）は当時、江東区の小学校の副校長。「残りの授業をどうするのか。卒業式は？ 入学式は？と、現場はパニックだった」。分散登校、オンライン授業、行事の中止…。国や自治体の通知は参考になるが、最終判断は現場に委ねられた。「コロナへの考え方は保護者間でも違う。区のガイドラインに根拠を求め、悩みながら常に「間」を取っていくしかなかった」

### 東京の感染者 837人

	4月24日 (月)	5月1日 (月)
感染者数 (1週間平均)	571人 (1,327人)	837人 (1,523人)
病床使用率 (入院者数)	12.9% (670人)	14.9% (762人)
重症者 病床使用率 (重症者数)	1.2% (5人)	1.7% (7人)
陽性率 (1週間平均)	9.2% (23日)	11.1% (30日)
神奈川	埼玉	千葉
462人	279人	233人

前」の日常が戻りつつある。国立成育医療研究センター（世田谷区）の臨床研究員で小児科専門医の山口有紗医師は「子どもたちの考えや意見が尊重される機会が減った三年間だった可能性がある」とみる。

（奥野斐）